



新しい学びのかたち

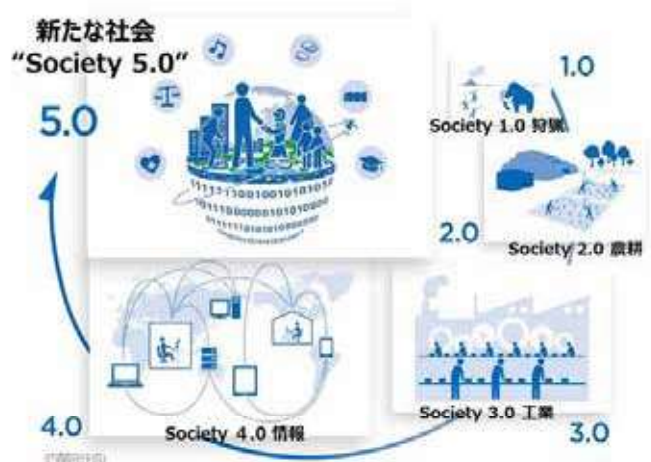


私たちは今、場所や時間に関係なく、欲しい情報を入手することができるだけでなく、各種手続きやサービスを受けたり、人とつながったりすることができる『情報化社会』の中で暮らしています。時間や天候に左右されていた、離島に住む私たちの暮らしも、オンライン上での仕事や買い物、コミュニケーションなどが可能となった情報化社会の到来によって、大きく様変わりしました。

その変化は、学校など教育の現場も同様で、対馬の子どもたちは、その技術を活用しながら、より成長しようと取り組みを続けています。

新しい社会の入り口に位置する現在

人類は、様々な技術の発明により進化を続けてきました。狩猟を中心とした時代から農耕の時代へ、蒸気機関の発明による産業革命を経て、コンピュータを活用した情報の時代を迎えました。現在、社会には情報はあふれているものの、乱雑で悪意のある情報は、時に人を傷つけたり、社会不安を引き起こしたりしています。また、現実社会では、少子高齢化や過疎化、あふれる情報をうまく活用できていないなどの問題を多く抱えていることから、日本政府は、これからの日本が目指すべき社会として、先進テクノロジーを駆使し、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合することで、現在抱えている問題や困難を克服し「人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる、人間中心の社会」（ソサエティSociety 5.0）を目指すとしています。



人類にとって大きな変化の時を迎えている

勉強・学習の時代から学びの時代へ

社会の変化に合わせ、学校での教育の姿も変化しています。これまでは、全員が決まった時間に一斉に授業を受け、同じ水準の学力や、計画を正確にこなす能力を身に付けることを重視する「勉強」、教育の蓄積を活用した深い学びや、それぞれが考えることを重視した「学習」を行ってきました。これからの学校教育は、子どもたちの学力や学ぶ姿を観察しながら、それぞれにあった学習ができるように支援することや、学校だけでなく、地域や企業などが学校と連携して、子どもたちに対し様々な学びの機会を提供し、多様な知識を得る「学び」を重視した時代へ変化していくことが求められています。

他地域に先行して取り組む対馬市のICT教育

子どもたち一人一人に合わせた教育が必要とされる現在、対馬市では、他の地域よりも先行して取り組みを行ってきました。その一つがICT（情報通信機器）を活用した取り組みです。対馬市では、平成30年度から、中学校は1人1台、小学校は1クラスで授業ができる台数のタブレット端末を配備しました。令和2年からは、小学校でも1人1台のタブレット端末を配備して、児童や生徒の学びの手助けを行っています。タブレット端末は、皆さんが持っているスマートフォンなどと同じように、携帯電話の回線を使用して通信



を行っているため、教室だけでなく、屋外や持ち帰っての利用ができるため、子どもたちそれぞれの「学び」に合わせ、機器を活用することができています。

※ICTとは

Information and Communication Technologyの略で情報通信機器と訳します。パソコンなどの単体ではなく、インターネットなど、ネットワークに接続することによって通信技術を活用したコミュニケーションを指します。

次ページ：教室の様子を大きく変えたタブレット端末

おじゃましました！

小中学校でタブレット端末を活用した授業の様子を紹介します

東小学校
(峰町)

6年生の国語の授業では、名言について紹介する授業を行っていました。以前の学習だと、伝記に書かれた歴史上の人物の名言を紹介するといった程度でしたが、ICTを活用することで、スポーツ選手や物語の中の登場人物などの名言や、古いものから新しいものまで幅広い内容を調べることが可能になりました。中には、お母さんの名言を紹介する子どももいました。これも、いろいろな人の言葉を調べることで「名言＝歴史上の人物が話した言葉」という先入観にとらわれない自由な発想を持つことができるからかもしれません。



それぞれの机には、教科書とノート、そしてタブレットが並ぶ



学習内容の共有やフォローが簡単にできる



タブレットを用いて隣の人に発表

選んだ名言は、隣の人に紹介しながら、自分が一番だと思うものを選びます。選ぶことも紹介することも、タブレット上で行うため、スムーズに進めることができます。また、画面上にまとめた情報は、先生と共有することもでき、先生は必要があれば全員に共有することも、大きな画面で見せることもできます。先生は、子どもたち一人一人の進み具合や理解度がすぐにわかるので、その時々に必要なアドバイスを行うことができます。さらに、データは保存できるので、黒板のようにすぐに消す必要がないため、振り返りや学習評価の際に見直すことができるメリットもあります。



発表や、その評価もスムーズ

全体の発表も、タブレット画面をスクリーンに映し出すことでスムーズに行うことができ、短い時間でより多くの児童が発表していました。また、姿勢や聞きやすさといった発表の様子についてのアンケートを取り、それを瞬時に集計して共有することもできるため、学習のテンポがとても良く感じました。



自分の書いた文字を見せながら全体に発表でき、聞く方も評価や意見がリアルタイムでまとめられる



学習の進度がわかりやすい

タブレットには、各教科の問題集も入っており、6年生以外のクラスでも、家庭学習や授業中に活用していました。機器同士がインターネットでつながっていることから、ただ問題を解くだけでなく、進み具合や理解度がリアルタイムに先生と共有できることで、きめ細かな指導につながっています。



問題の正解率だけでなく、回答にかかった時間などこれまでわからなかった情報も知ることができる



東小学校6年
こめた かくま
米田 寛真 さん

自分用のタブレットがあることで、屋外で虫や植物など、自分が気になったものの写真を撮れることが良いと思います。また、社会科見学の時には、写真を撮るだけでなく、気になったことをすぐに調べることができてとても良かったです。

また、自分の意見をまとめる時には、タブレットの中のカードに、思いついた考えをいくつも作ることができるのも良いところだと思います。友だちとカードを見せ合うことで、自分とは違う意見をすぐに知ることができ、とても参考になっています。

「より子どもたちに向き合う時間ができています」

今、タブレットで行っていることは、以前の学校でも行っていたことではあります。しかし、手書きで教材を作ったり、黒板に発表内容を書いたりといったことに時間がかかります。機器がネットワークでつながっていることで、皆の考えをスムーズに共有することができることで、より多くの発表ができたり、子どもたちに向き合うこともできます。教師用の端末には、それぞれの学習状況が入ってくるので、それぞれの進み具合に合わせたフォローが可能になります。ヒントが必要な児童には、個別に、しかも動画などより分かりやすい方法を使って手助けをすることができるので、授業全体のスピードを落とすことなく、フォローが可能になったというのはとても良いことだと思っています。

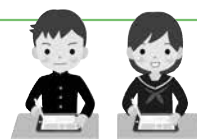
教職員としても、これまでかなりの時間を必要としていた授業の準備や問題の答え合わせ、子どもたちの考えをまとめるなどの時間がタブレットを使うことで減ったり無くなったりするので、より子どもたちに向かい合う時間が確保できています。



東小学校
古藤 進一 教諭



生徒の自主活動にも活用しています



小学校より先にタブレットが1人1台配備された中学校では、コロナ禍で休校となった際に、タブレットを介して健康観察や家庭学習に使用するなど授業時以外でも活用が進められてきました。

各教科ごとに、より専門的な知識を学ぶ中学校では、それぞれの教科ごとにタブレットを使うメリットがあります。ICTを担当する埴原弘貴教諭は「私の受け持ちの数学では、

関数や図形などが色々な方向から見ることができ、より問題が考えやすくなっていると思う」と話します。

また、中学生は生徒会活動など、教科以外の部分での活用も進んでいます。生徒会活動のお知らせやアンケートなどを事前に配布することで、スムーズな活動につながっています。生徒自らテーマを見つけ答えを探す「探究学習」では、学習への使用に加え、成果を発表する手段としてもタブレットは活躍していて、全校生徒に向けて行う学習発表会では、タブレットを駆使し、それぞれが学習の成果を発表しました。



教科や学校活動で幅広く活用されるタブレット

成果と課題は？

ICT教育の実施によって、児童生徒数の減少や体験機会が少ないといった対馬が抱える教育環境の問題に対して良い影響が生まれています。今後は、ネットワークを利用する際の危険性の理解やモラルの向上など、子どもたちだけでなく家族や地域全体と一緒に考えていく必要があります。